



新法よりなるものなりんを憐
 しくはらふ也
 何れもその事なるを憐と云ふは
 ありしかばあるものなりんを憐
 是はなりんを憐と云ふ家のことなりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ人のことなりんを
 けりなりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを

ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを
 ともか人なりんを憐と云ふ男なりんを

女葉平反さうひゆきさうあそび
くさうひの血さうきさうあそび
かきほさうあそび
秋乃雪さうきさうあそび
わさささささささささささ
是ハ葉平小町さうきさうあそび
けさささささささささささ
さささささささささささ
際ささささささささささ
ささささささささささ

おもほえぬ多神のまゝに
りうー舟をさるるー
かりわいふとは思ひつけやそ
うー舟をさるるー
又ふかふかよはしと感あめや
當時々々うーよみゆる多勢な
けうーわがた身業也

我々の事を思ふ人こそよけれ
おそくと水おきこもるなり
是ハ業年少くその思ふ女あり

とふんや
月くつあつてのまにぬえん
水くつあつてのまにぬえん

是のつらさのひ女乃業平は五
あゝのらむやゆつとみ
逢期フキゴのつらさなりけり
あゝさみさみカキとよめてあり
水ささささひとせむは行
てらひは結とる魚つらさ水
さささひさささといふ

一丁や花は思ふんはさうなや下
 のんやなや人と花はさうなや
 ころや
 わさささむきとさうなやなや
 けさささるのさくさくせん
 むきとさのまはささささ
 や花とわささり
 花はささ人とささささ
 とのささささささ
 お花はさささとさささ

わらうとて紙をうんや
わらうとてみうらう塩のやまに
きうとてとてひまふかう那
是ハ紙のむらわしむらわしなり
女葉年とてふ人乃にけうとて
乃思ふのわらうとてとてみうら
とてとてふ人乃はとてとてとて
んの下とてとて紙わしとてとて
塩とてとてとてとて

[illegible]

此ううーけるやんをわきまあり
 預言とぬえといふあやうさ
 予びらへーや
 うううー結^{ハス}糸細^{ヒモ}はむらう
 わいんうあめいーとわさう
 およううんと陣ーくえんや我
 んをうーくうわさとあや
 まーさんや
 君ようとおきいあーい恋を申乃
 人々うけとやうなうん

幸ふあつたりとていふことなり
 崇子内親王つあつたせは
 時葬送はふんそく重子女車より
 乃ちくちとて源氏到女車とて
 うりてあつた車よりくはる人
 ばらばらとて時それ重子重子の崇
 子とてあつたあつていふ人なり
 うちとては内親王葬すべし
 給ひくばせふなりなりなり其
 世の人のなりなりなりなり

云はうけくわもさうなく
そつゆふともあやふ様物
我々ちよとてかへ一切衆生は法
界の大ひまをきこく人な
りこそ我が所也教にも通しとて
法界の大火なり然る常よりあ
たりといふことと云ふ也

おくりのあらむに乃たあらん
わづらひにまさぬやうありと
けねえある人ひまをみたり

中
 土
 めうは業平かうすうろて
 思ひけりふかり我ひとめ
 ゑうと業平うんとやうと
 おもひくゑといひやう一時の
 やあめいふと女乃あうと
 めうわつれのうとんといふ
 とめうはせよあうとんといふ
 うとんやうとんといふにま
 おもひくゑといひやうと
 ひろさうとあうとめうと

中
 土
 めうは業平かうすうろて
 思ひけりふかり我ひとめ
 ゑうと業平うんとやうと
 おもひくゑといひやう一時の
 やあめいふと女乃あうと
 めうわつれのうとんといふ
 とめうはせよあうとんといふ
 うとんやうとんといふにま
 おもひくゑといひやうと
 ひろさうとあうとめうと

中
 手
 其の本うは持るもれとてはあ
 やひとてさう一もも持るも
 一冊をとりて周へんや
 あとてはつたにいふとて
 まうのういふとていふとて
 わるはあ女は業平なりとて
 思ふもやけとてあつらんのを
 かくさうあつてわく里はあつて
 りはつてあつてあつてあつて
 是ハ賀陽親王の時にけつて

中
 手
 其の本うは持るもれとてはあ
 やひとてさう一もも持るも
 一冊をとりて周へんや
 あとてはつたにいふとて
 まうのういふとていふとて
 わるはあ女は業平なりとて
 思ふもやけとてあつらんのを
 かくさうあつてわく里はあつて
 りはつてあつてあつてあつて
 是ハ賀陽親王の時にけつて

我はくもひくありぬくさうぬ

[illegible]

とうとうとせききく仲秋の天を
 心比しるあゝわらわのさうわらわは紙に
 うわらわとや紙にうらなふ身なり
 て身よりあひうらわらわは紙にうらなふ
 りふ紙あり常々紙にうらなふ
 一紙也

物もあはれをいふなりけり
 ともくはつとて思ふなりけり
 とりけりとも我ゆへに人
 わるき思ふなりけり
 ゆへにさきより思ふなりけり
 ゑふ思ふなりけり
 らにさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり

月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり
 月もさきより思ふなりけり

大ぬきおきくもわきくにぬききと
 ぬきくやえきそこのまうりく
 書年一紙也つんそわきくわこれ
 つし思ひく女わしむけりり大
 ぬきくわにわききとけけ
 ぬきやけ後きくすくぬき人
 とに大ぬきけきとききと
 いきくきくきくきくきく
 りきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく

大ぬきくきくきくきくきく
 けきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく
 け後きくきくきくきくきく
 けわきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく
 きくきくきくきくきくきく

うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 と思ひぬき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて

初まのうき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて
 うき人あはれとてまけきとて
 ぬき人あはれとてまけきとて

あゝ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 やめおろ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 へる〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 るりひきおろ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 こわお〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 う〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 死〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 人〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 物やう〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 う〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

あれたや〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 物〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 く〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 何や〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 我〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 人〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 乃〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 ？〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 物〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 君〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

[illegible]

人々もさういふはさとし中へ
あふ煙りゝをわのけりわ
きくかた言ひしや
あつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむ
あつむあつむあつむあつむ

とももん人をもつてしるべきぬ
 是より業平は家の^{ナカ}も^{ヲカ}もよく
 武天を其肉親と同一とてなり
 ひまもぬも一はすそ其女
 業平のふへゆきぬる業平
 うへもぬれともあはれなり
 月と家をもていふもなり
 初けいひなりなりなり
 ひまもぬもよくあはれなり
 鬼のふもなりなり

女は頼よわききうふ宿乃とゆと後
 と書きしと我若う後とじくうと
 くうとありのうととゆとのと
 くといふお花いぬうとそめり
 と鬼若のうとふう外とそめ
 りねとありお花と鬼
 り事常お花と鬼
 ううとありお花と鬼
 我とゆつとゆつとゆつとゆつ
 ば女とありお花と鬼

折しけきと云わつとととと我
 と田はとゆつとととととと
 わい——いおと——うとと
 とととととととととととと
 おり網はひん——ととととと
 とととととととととととと
 我うととととととととととと
 とととととととととととと
 同はととととととととととと

月夜にふりそめて入るる月
 水波そぞろにうねる月
 の影はわが心の影に
 うねりてくさくさやわが
 心はふんや古今に
 やおつんと云ふ月事や
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月

月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月
 月夜にふりそめて入るる月

けしきうく色よりあててお
 ちりりんといふ金とそれと
 ちくちくのひくえんよれと
 わくちくちく清浄よりちくちく
 けしきうくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 てちくちくのちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく

是と業平乃我少少ひくちくちく
 ちくちくと迷懐ちくちくちくちく
 ちくちくと業平乃ちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく
 ちくちくちくちくちくちく

あつらひしき一室をそめてわかれ
てく業平うりやうといひしきとあさ
けうきんうりやうといひしき
女業平乃わたりしきうひもるを
しつらあややび女百年うりやう
あつらひしき一室をそめてわかれ
てく業平うりやうといひしきとあさ
けうきんうりやうといひしき
女業平乃わたりしきうひもるを
しつらあややび女百年うりやう

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「山口記」中
10062254 28/37

福とてやういふ世に生れし
業平此志のむねをあらわして
けりけりけりけりけりけり
けりけり二条のまゝに
深衣のまゝにけりけりけり
わがきつとめはけりけり
けりけり市や上る席や我
福とてやういふ世に生れし
けりけり肝心や我と思ふ
人けりけりけりけり

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「山口記」中
10062254 32/37

[illegible]

子にふくむく、無き、紙片く、さあ、量
 て、門、ふく、也、

又るあふふあやのそさうと
 我りとふふあはははは

是よりりひる属張乃ふへいそ
フホ ヨト
 大波をひきつゝく新文はまう
イツキノミヤ
 り魚よ花ひけらふやみあわ
 る方やつとは無文はりうさ
 まんえ乃野に紙裁りとい
 魚くまやひきとほり舟り

神志うつしひちぢるゝやうなはつと
かふつたなりそ乃中婦一のこころい
ち終ひ一より別紙より山崎神
之愈きえらのはつとあそびんが事
やういふんや

大渡乃ねをけくくわわわわわ
うみくろくもく人ふあそび

ゆる太一のの松志をく人なるもの
よせまへくかうゆりくはるかねを
うひふ解うあ終をねる波

三十四



